

● 世界の主な地震

令和7年(2025年)10月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

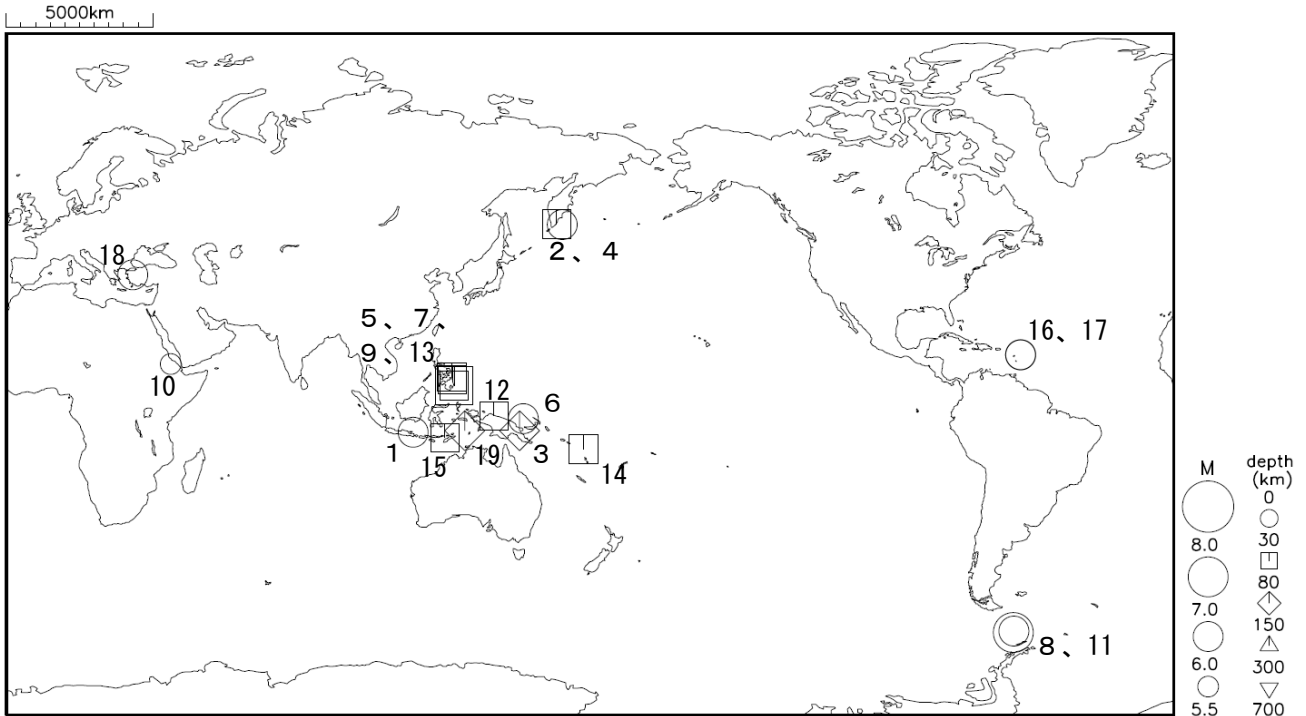


図1 令和7年(2025年)10月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

表1 令和7年(2025年)10月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ(km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	10月01日01時49分	S 7° 12.2'	E114° 11.1'	25			6.0	バリ海			
2	10月04日01時07分	N51° 37.6'	E159° 54.4'	19			6.1	ロシア、カムチャツカ半島東方沖			
3	10月07日20時05分	S 6° 45.3'	E146° 48.9'	104			6.6	パプアニューギニア、ニューギニア東部		○	
4	10月09日22時28分	N51° 42.9'	E158° 12.1'	64			6.1	ロシア、カムチャツカ半島東岸			
5	10月10日10時43分	N 7° 15.8'	E126° 45.2'	58			(7.4)	フィリピン諸島、ミンダナオ	死者10人など 津波観測0.19m(ベオ)など	○	○
6	10月10日11時08分	S 3° 1.5'	E147° 58.1'	10			6.3	ビスマルク海			
7	10月10日20時12分	N 7° 10.2'	E126° 45.3'	61			6.7	フィリピン諸島、ミンダナオ		○	
8	10月11日05時29分	S60° 11.7'	W 61° 47.9'	9			(7.6)	ドレーク海峡			○
9	10月11日23時33分	N 8° 55.1'	E126° 13.1'	77			6.0	フィリピン諸島、ミンダナオ			
10	10月12日01時18分	N13° 45.6'	E 39° 50.9'	10			5.6	エチオピア			
11	10月16日10時42分	S59° 54.3'	W 61° 37.3'	10			6.3	ドレーク海峡	死者1人など		
12	10月16日14時48分	S 2° 10.0'	E138° 56.2'	35			6.5	インドネシア、イリアンジャヤ		○	
13	10月17日08時03分	N 9° 45.3'	E126° 6.5'	69			6.1	フィリピン諸島、ミンダナオ			
14	10月26日08時28分	S12° 24.8'	E166° 23.3'	54			6.0	サンタクルーズ諸島			
15	10月27日02時04分	S 8° 52.1'	E123° 57.1'	75			6.2	インドネシア、フローレス			
16	10月27日21時38分	N16° 31.7'	W 59° 34.3'	9			6.5	リワード諸島			
17	10月27日21時54分	N16° 33.5'	W 59° 33.7'	10			6.0	リワード諸島			
18	10月28日04時48分	N39° 13.9'	E 28° 13.6'	8			6.0	トルコ			
19	10月28日23時40分	S 6° 44.6'	E130° 1.2'	142			6.4	バンダ海			

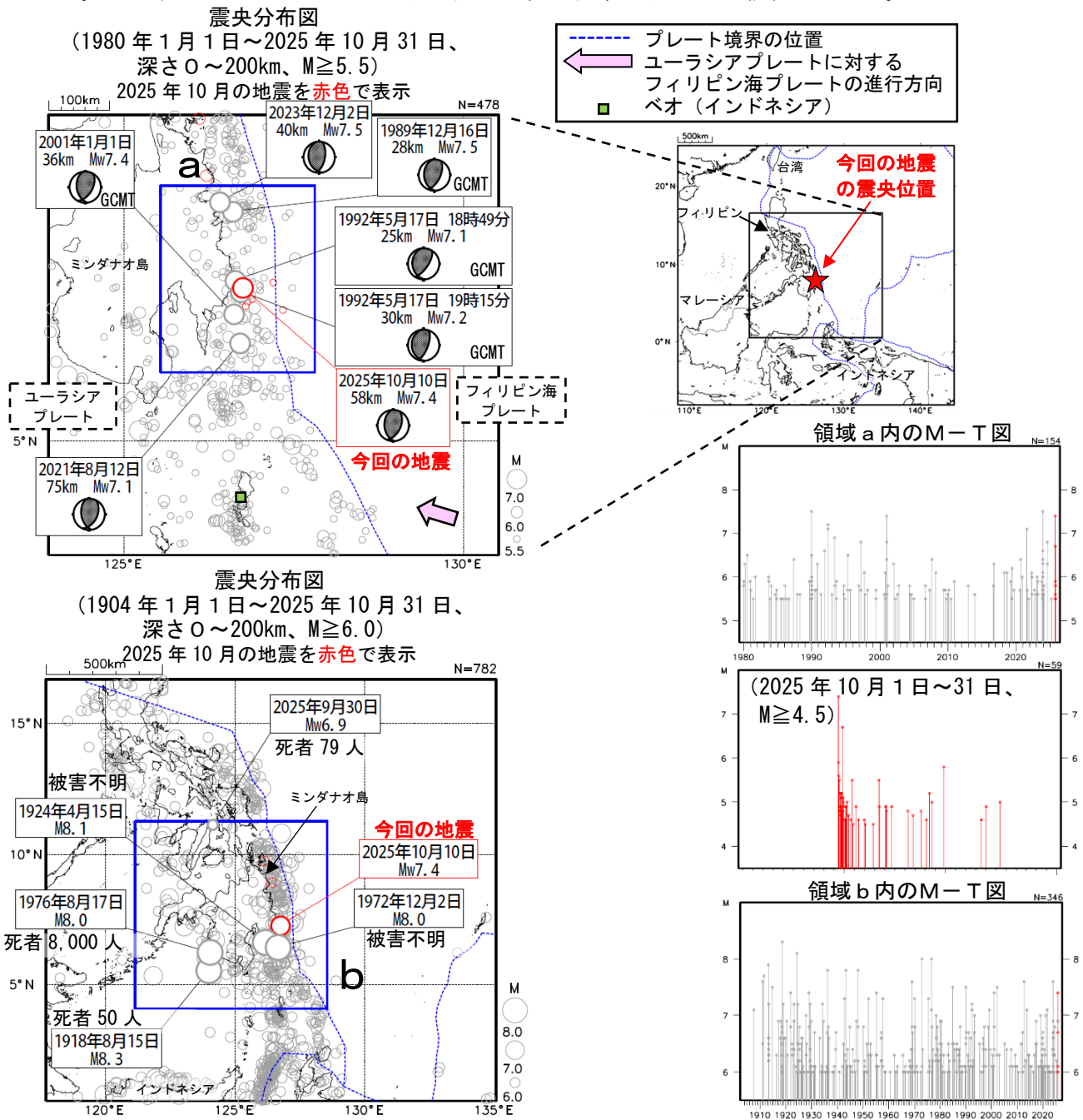
- 震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Search Earthquake Catalog” (<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による(2025年11月4日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mjの欄に記載したマグニチュード、Mwの欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは気象庁による。Mwの欄に下付きて「G」を付して記載したモーメントマグニチュードは、Global CMTによる。
- 被害状況は、出典のないものはOCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所、2025年11月4日現在)による。
- 地震発生時刻は日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- 「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報(NWPTA)(※)を発表したことを表す。
※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」(<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/nwpta.html>)参照。
- 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- 海外の津波の観測値は、米国海洋大気庁(NOAA; National Oceanic and Atmospheric Administration)による(2025年11月4日現在)。

10月10日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

2025年10月10日10時43分（日本時間、以下同じ）にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ58kmでMw7.4の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。気象庁は、この地震について同日11時09分に遠地震に関する情報（日本沿岸で若干の海面変動あり）を発表した。この地震により、インドネシアのベオで0.19mなどの津波を観測した。また、この地震により、死者10人、負傷者403人等の被害が生じた。この地震の発生後に地震活動が活発になり、同日20時12分にはMw6.7の地震が発生した（MwはGlobal CMTによる）。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）ではM7.0以上の地震が時々発生している。2023年12月2日にはMw7.5の地震が発生し、この地震により、日本国内では、八丈島八重根で0.4mなど、宮城県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、沖縄県、伊豆諸島及び小笠原諸島で津波を観測した。また、海外では、フィリピンのマウェス島で0.32mなどの津波を観測した。

1904年以降の活動をみると、フィリピン諸島周辺（領域b）では、M7.0以上の地震がしばしば発生している。1976年8月17日にはM8.0の地震が発生し、死者8,000人などの被害が生じた。



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12 (1904-2021)、2022年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2025年11月4日現在)。ただし、2021年8月12日、2023年12月2日、2025年9月30日、及び今回の地震のMw及び発震機構は気象庁により、それ以外の地震のMw及び発震機構はGlobal CMTによる。海外の津波の高さは米国海洋大気庁 (NOAA) による (2025年11月4日現在)。今回及び2025年9月30日の地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所) による (2025年11月4日現在)。その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置とプレートの進行方向はBird (2003)*1より引用。

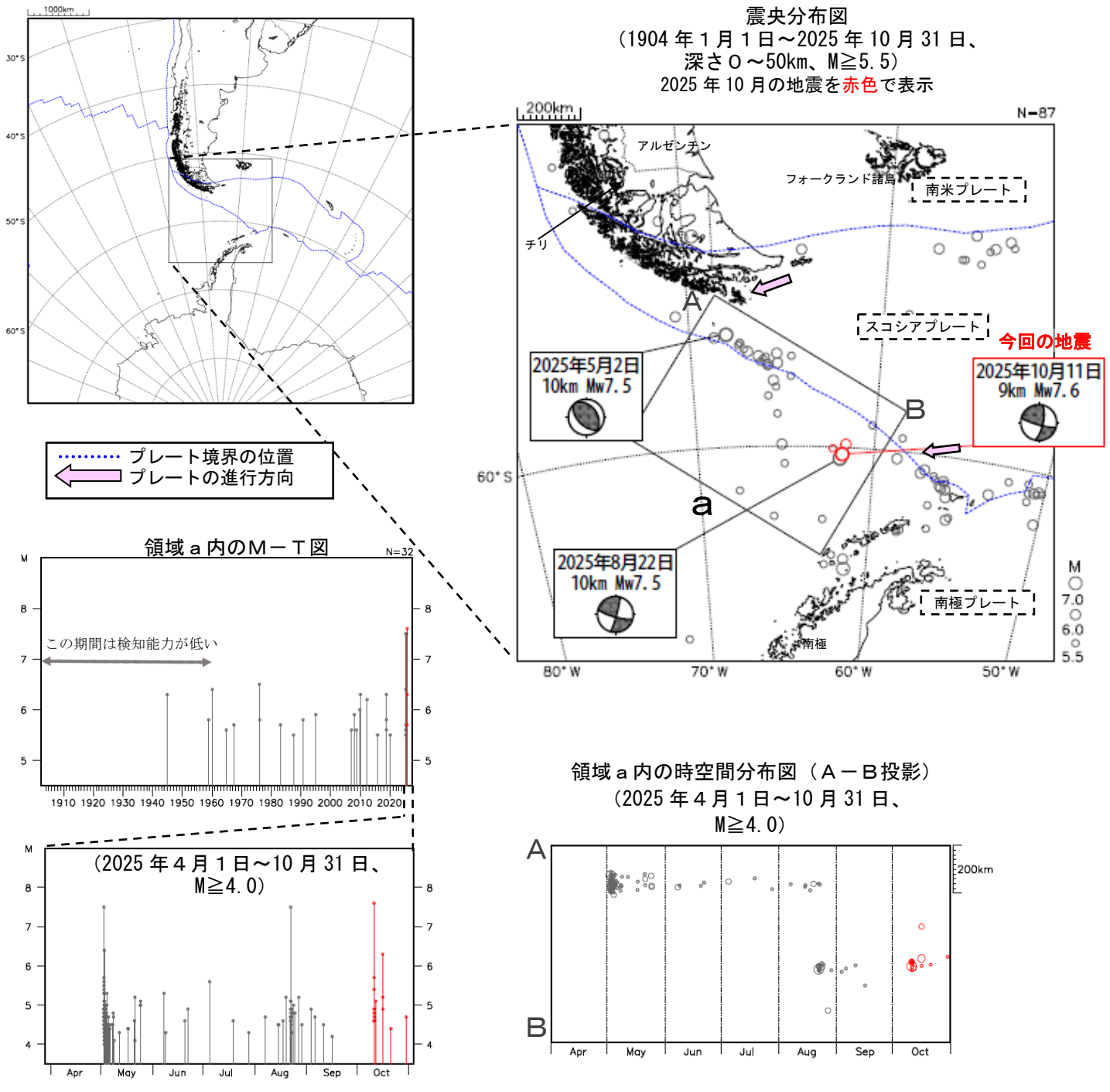
*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027. doi:10.1029/2001GC000252.

10月11日 ドレーク海峡の地震

2025年10月11日05時29分（日本時間、以下同じ）にドレーク海峡の深さ9kmでMw7.6の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震は南極プレート内で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2025年5月2日にはMw7.5の地震（Mwは気象庁による）の地震が発生した。また、2025年8月22日にはMw7.5の地震（Mwは気象庁による）の地震が発生した。

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域a）ではM6.0以上の地震が時々発生しているが、M7.0以上の地震はほとんど発生していなかった。



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022年以降は米国地質調査所(USGS)による(2025年10月31日現在)。ただし、今回の地震、2025年5月2日及び8月22日の地震の発震機構及びMwは気象庁による。プレート境界の位置及び進行方向はBird(2003)^{*1}より引用。

^{*1}参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.